

教務だより

2010年12月号
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

一念、岩をも通す…受験生の君へ

茗溪塾塾長 宇野雅春

子供の頃、初めて青森から上京した日のことは今でもはっきりと覚えています。夜青森を発って、十数時間はかかったと思います。朝上野につき、上野動物園を初めてみたこと、浅草の花やしきでのジェットコースターに乗ったことなど、初体験の数々が今でも強烈に印象に残っています。先ごろ開通した青森新幹線は、3時間20分で東京⇄青森間を結ぶそうで、しみじみと時代の違いを考えてしまいました。明らかに何もかもが、変わっているのです。「時代」というものは全く「すごい！」と思います。はじめて上京した時と比べたら、想像できないくらいに豊かな今の生活があります。

2010年、最後の月になりました。大きな時代の転換点をここでも感じてしまうたくさんの出来事が目まぐるしくニュースを賑わしています。中学受験や大学受験ではすでに入試結果が出ているところもありますが、大半の人はここからが、正念場です。自分にとっての一番大切なことがここから始まるという事です。世の中のことも大切なことですが、自分にとっての「優先順位」を見逃してしまわないようにと願っています。

毎年、最後の頑張りで奇跡の合格を得る人がたくさんいます。その場面に出くわすたびに「一念岩をも通す！」という言葉思い出します。その頑張りが感動を呼ぶのはなぜだろう？と考えてみました。

受験期だから誰もが勉強するのは当たり前のことです。でも、届かないと思っていた学校に見事合格するというのは、やはりそこに、本当の努力があったからです。勉強がかみ合っているといてもいいかも知れません。逆に捉え返してみると、生徒本人の自覚と努力の無い「成功」は、本当の成功とはいえません。誰かに強制されたり、管理されての合格は、喜びの無い分いつか破綻します。どんな天才と言われた人も最初は、「強制」があったりします。でも成功する人は必ずそこに「喜び」を見出しています。楽しんでさえいます。

勉強が忙しくなるほどにやりたいことがどんどん増えることがあります。親からの重い期待(ほとんど本人に責任がありますが…)、自分のやりたいこと、その狭間で悩んでいるうちに、受験自体が終わってしまう生徒も少なくありません。あとほんの2ヶ月くらいのことなのに、それが永遠に続くかのように錯覚し、逃げ出そうとします。逃げ出さなくても、「受験」は終わります。塾通いもいつまでも続くわけではありません。

塾が一番大変になるのは、ここからです。なぜなら、すべてが「受験」に集中してくるからです。生徒一人ひとりの合格を願わない先生はいないと思います。この時期の一喜一憂や眠れない夜も辛いことですが、あとで振り返れば「最も充実している」ともいえるのがこの時期です。ただの煩わしい苦勞と考えず、喜びに繋がる試練と考えるべきなのです。つまり指導する側も生徒もそれぞれの「一念」がはっきりしていることがその混乱を救う事になります。それさえあれば、努力は本物になります。その本物の努力が、いつか私達も、君たちをも支えることになります。「やらされ仕事」や「やらされ勉強」で終わってしまったら、それは蓄積や経験値にならないだけでなく、そのあとが続かないと思います。

「自分がどうしたいのか?」「自分がどうなりたいのか?」そこをしっかりと掴みましょう。その時、きっと岩をも貫く大きな力が生まれます。自分一人の力ではない大きな力が動き始めるのです。すべてがプラスに動いていくことになります。

受験生というその貴重な経験がきっと、新しいレベルに君を導くことになります。苦しく感じることも辛いことも、すべてが「レベルを上げる(自分を変える)」そういうプラスの努力であることを信じませんか?いよいよ受験です。気を引き締めて最後までやり遂げること、「受験におけるWIN-WIN」の正念場です。